

全国の看護師を応援！

CO-OPナース

現在日本では、乳児の10人に1人が食物アレルギーと言われていきます。食事は日々の楽しみであり生きていくための基本。成長期の小児にとっても大切な要素です。

当院では2016年に食物経口負荷試験^{※2}を開設し、負荷試験をおこなう体制を整えました。乳児から思春期の子どもを対象に、地域も本島内から離島までの広域に対応しているのが特徴です。

負荷試験には、いい結果を期待しながら緊張

医療福祉生協連の看護師求人サイト「CO-OP ナース」に掲載されている病院やそこに勤務する看護師の仕事を紹介します。



最愛なるアレルギーメンバー。合言葉は進化!

チーム医療で支えあう！ 食物アレルギーに負けない子ども

沖縄医療生協 沖縄協同病院 小児アレルギーエドゥケーター^{※1}看護師 金城祥子

はいさい！（沖縄方言でこんにちは）

那覇市にある沖縄協同病院小児アレルギー外来は、経験豊かな小児アレルギー専門医を含む4人の小児科医師と看護師、栄養士、薬剤師の専門職チームでアレルギー疾患患児を支える活動に奮闘しています。

した面持ちで来院されるご家族が多数います。その緊張を和らげ、安全に試験が実施できるよう配慮するとともに、アレルギーを持つ母親同士のつなぎ役になることなど、看護師の役割も数多くあります。頻^{ひんぱん}な受診が困難な離島の患児へは、看護師から手紙を書き、情報共有をします。相談内容によっては各専門職と連携を取り、電話で回答することもあります。負荷試験で何が食べられるのかを調べ、指導することで、食事に対する不安や極端な食事制限から解放していきます。食べ物アレルギーのある子どもが食事を楽しめ、生活の質が高まるように、今後も専門性を重視したチーム医療看護を実践し、「この病院に来てよかった」と思ってもらえるよう奮闘していきたいです。

負荷試験の様子。食物を扱うためマスクは必須です



初めて食べる食材を頬張る子どもを不安そうに見守る母

- ※1 アレルギーエドゥケーター：日本小児臨床アレルギー学会が認定する、アレルギー専門の高度な知識と技術指導を持った医療従事者。小児アレルギー疾患で悩む親子をサポートし、生活の向上に貢献する
- ※2 食物経口負荷試験：体制や設備が整い、学会の施設基準をクリアした医療機関で、少しずつアレルギーの原因となる食べ物を食べていく検査。目的は診断のためと、時間がたち食べられるようになっているかを確認するため

医療福祉生協連の看護師求人サイト

CO-OPナース

<http://nurse-coop.jp/>



北は北海道から南は沖縄まで42都道府県にある、106の医療福祉生協。75の病院、343の診療所、189の訪問看護ステーション、28の老人保健施設を展開し、約1万2500人の看護職員が勤めています（2017年3月末現在）。全国ネットワークを生かした豊富な求人サイトを、完全無料で利用できます。

このサイトに載っていない事業所でも、気軽にお問い合わせください。